

「続如是我聞」を推薦する

長谷部俊一郎

五井昌久先生の直弟子で白光真宏会の機関誌「白光」の編集をながくしている高橋英雄さんが、今度「続如是我聞」を出版した。「如是我聞」とは側近にいて折にふれ、五井先生のかたられたことば片言隻語を収録した金言集である。

わたしは永年「白光」誌の恵与をいただき、何よりもまずこの「如是我聞」をよみふけた。

実に片々たることばが時に電光石火、心をとらえ、襟を正さしめ、ときに手をたいて同感を禁じ得ない程の語録。寸鉄人をさす妙句をも秘めているからである。

人は不用意にかたることばのなかに、真骨頂を含むものである。五井昌久先生の法話も懇切で耳を傾けしめるものがあるが、むしろわたしはこの短言にいのちあることばのすばらしさを発見している。

釈尊によい弟子阿難がいた。阿難はその説法をきゝもらさじと胸にたゝみこみ、のち「われかくのごとくきく」の冒頭をもつて経を編んだ。イエスの弟子ヨハネもたしかり。

わたしは文豪ゲエテによい弟子エッケルマンがおつて、晩年円熟した言行を書きとめ、それが「ゲエテとの対話」を生んだことを知っている。もしエッケルマンなくしてはゲエテの晩年の面影を知ること、今日程ではあり得なかつたであらう。

五井昌久先生によい弟子高橋英雄さんがおることはまことに祝福されていい。彼は前に「如是我聞」を世に問うて読者を狂喜せしめた。彼は名編集長としてまた側

近の一人として、先生のことばを収録してくれることはたいへんありがたい。

前著「如是我聞」をはるかにしのぐすぐれた法語集として今度の出版は江湖の渴をいやしてくれるにちがいない。

わたしはこれを愛読することを切にねごうものである。

(詩人)

私は人に靈修行をするようにすすめはしない。しかし——どうしても始めなければならなくなったら、とことんまでやらなければいけない。

身体が透き通って、自分がどこかへなくなってしまう気がするから、恐ろしくなる時がある。そこを乗りきるのが大変なのだ。どうしても肉体が自分だと思ってるからね。私の修行中にもそういうことはあった。けれど私はとことんまで突きつめるというたちもあったからだろうが、結局は守護神たちがやらせようとしてやらせたのだから、最後までやり通せたのだろう。

そういうことを思うと、人それぞれには天から与えられている使命があって、その使命以外のことをやろうといくら力りきんでもだめだ、ということがわかる。たゞ素直に神のみ心の中に入ってゆくこと、そうすると自然に使命を果すことができるよ

うにさせて下さる。

2

自分をせめ、人をせめることを止めよ。せめることから自分を解き放つと、生命の光が豊かに流れ入ってくる。

3

たとえ自分が馬鹿をみても、自分が損をしても、自分の都合より人が真に生きるための都合を先に考えるということに徹し切ることだ。

4

自分自分と思っているものは、単なる想いに過ぎないのである。水泡うたかたの如くあらわれては消えてゆくものである。真の自分とは、内奥で光り輝いているものである。この真の自分を把握し、自覚できる時、人は真に幸福になれる。

5

今の原因は、たどるとみな前生にある。

6

世界平和を祈っていれば、その場そのままでも死んでもいいんだ。そのままが神界なのだから。

7

世界平和の祈りで生命おだやかな平安な生活をしよう。

8

富や地位を得ようとあくせくするな。それより積極的に善をなせ。ということ
は、世界平和の祈りをまず一生懸命祈ることである。そうすると、天より必要な時
に必要な財が与えられ、必要な地位が与えられる。

9

人間は生き通しの生命なのである。生命の個性のひびきをもって、永遠に輝き生きつづけるのである。

10

肉体を去っても体はある。しかし、その体は微妙な波動の体であって、光であると同時に、あらわそうと思えば体となる、というものである。

11

自分を愛するとは、神さまからきた自分の生命を大切にすることである。自分の心、自分の生命を汚さないことである。つねに自分の心をきれいに磨いておくことである。

12

いかに自分が正しくとも、人を傷つけてはいけない。

13

つねに完全を目指して精進せよ。かえりみて己れになんらかのわだかまりがあったらば、それがなくなるまで祈りつづけることだ。

14

言葉と行動を一致させよう。

15

祈りはたゆみなくせよ。

16

いかに自分が正しいことをやっても、他の人に不快な感情を与えるようでは、まだその行為は本ものとはいえない。

17

肉体への執着、喜怒哀楽、利害得失に把われそうになったら、その時ほど強く祈ることだ。

18

人生はラセン階段式に登ってゆくものだ。心境が下さったように見えた時、思った時が大事である。「オレはなんて駄目なんだ」としよげず、そういう時こそ祈り、迷いがたくさん出た時ほど一番心が飛躍する時だ、と思え。

19

熱しやすくさめやすいのが、人間の想いであるが、自然にいつも静かに燃えている想いになるためには、想いをギリギリさせて祈るのではなく、心をゆったりと、のんびりとさせて祈ることが必要である。

世界平和の祈りは大光明である。唯一つの避難所である。

祈りの中に入っていれば、何ものもおかすことはできない。ところが、おかされるんじゃないか、とあってしまう。因縁があれば悪いことが出てくるのではないか、と不安に思ったりする。折角、光明の中に入っていながら、想いの手を外に出してしまうのである。

あゝでもない、こうでもない、だめじゃないか、いいじゃないか、などと想いをゆるがして想いの手を出すな。出したら、すぐ消えてゆく姿だな、とあって手をひっこめろ。

ここに一個の肉体としてあると自分は一人だと思ふ。しかし、自己は一人ではな

く、祖先の代表としてここに生れているのであり、祖先の悲願が結集して自分と
なつて生きているのである。

22

人間は肉体ではなく、神の光の現われている一つの場であり、光の働きをしてい
るものである。

23

永遠の生命をつかまなければ、真の平和も幸福も得られない。

24

人間は肉体だけのもの、としか考えられない人は不幸だと思う。たかだか長くて
百年という短かい期間の中で、人をあざむいたり、人をおとしめたりして栄華を
尽して何になろう。ふみつけられ通しの一生だとしても、苦しみの連続の生涯だっ

たととしても、生命を汚さず、生命を生かしているものは、永遠の生命をすでに輝かしているものなのだ。

25

まず幽体を浄めることである。幽体が浄まると神の光がそのまま素直にあらわれる。

26

世界平和の祈りの大光明は、幽体、幽界の汚れを浄める力である。

27

人間の心というものは不思議なもので、見るものと見られるものと二つあります。例えば恐怖する心とそれを消えてゆく姿と見る心とがあるわけです。あらゆる想いを消えてゆく姿と眺め、世界平和の祈りに入れきっていると、見るものと見ら

れるものが一つになり、おのずか自らとみずか自らとが一体になり、させられることとすることが一つになるのです。

28

真実の勇氣というのは人々にわからないことが多い。長距離競走をしていて、ピリと一等とを見まちがえてしまうことがある。それと同じようなものだ。

29

編集室でのことである。ちょうど村田正雄さんもいらっしやつてのこと。

「今ここに、たとえば村田正雄、高橋英雄というものがいると思うでしょう。しかし私の目からみると、そういう個の肉体はないのです。天命が生きていますよ」

30

自分が正しいと思ったこと、善いと思ったことを実行できて、はじめてその人は善い人といえるのである。

31

宗教は小我の自分をなくすために入る。宗教に入って小我の自己があつてはおかしい。自分を出したい人は、自分をどんどん出しきって、この世の中の経験をつんでみることだ。そして壁に突き当たった時、はじめて宗教の門をくぐるとよい。

32

昔ながらのことだが、やはり女性はつつしみ深さがあつたほうが美しい。

33

言葉よりも、その人の行為に宗教はあるのである。

34

人間の真の幸福は神を知ることです。神を知るとは自分自身を知ることです。これが一番の幸福です。

35

ルオーの展覧会へ行きましたが、そこにキリストの絵が出品されていました。そのキリストの絵には生命が生きているのです。私が観るとそこにキリストが来ているのです。だからでしょうか、その絵をみると涙が出てしかたがありませんでした。ルオーが彼の生命をこめて描いた絵なんですね。何事をするにも、生命をこめて一生懸命する時、そこには神がいらっしゃるのです。台所仕事なら台所仕事に一生懸命生命をこめてするなら、そこに神がいらっしゃるのです。

36

善といい、悪というのも弁証法的展開の現れであって、悪と現われるのも善への

過程であり、善と現われるのもより高き、素晴らしい善の現われんとする過程である。善といい悪というものは本来ないのである。たゞ本来性の善のみ在るのである。

37

本当のことを伝えるには少ない言葉でよい。真理のコトバは数少ないもので充分である。

38

自他の想いに把われず、想いを自由自在にできる人を悟っている人という。

39

祈りとは祈り言葉をハシゴとして、生命をひらいてゆくことである。

40

人格をはかる尺度は家庭の身近かの者にいかに尊敬されているか、いかに愛されているかにある。

41

己れの直感のままに行動して失敗したからといって、恐れてはいけない。その失敗したことが、あとで好結果をもたらしてくれる。守護神さんはそういう導き方をくずして下さるものなのである。

42

精神統一という言葉にとらわれてはいけない。常に各人を守っていて下さる守護霊に、〃守護霊さん有難うございます〃と感謝することは、守護霊さんに統一したことになるのです。そうすると守護神さんからの力がグーッと自分に入ってくるのです。

霊的な人にはつねに注意をはらえ。

まず自分の調和が大事である。

神さまは魂の親である。だから何かある時は子供が親に向っていうように、無邪気に素直に「神さま、教えて下さい」と神さまにきくことである。するとスパッと答えが出てくるものである。

「私たちの使命は祈りの使命です。それぞれが世界人類の平和を祈ることによって光の柱となり、天と地をつなぐ使命を持っているのです。現世の仕事は第二で、

まず第一は祈りです」とある講師の質問に先生は答えられていた。

47

仕事がある時は一生懸命にやり

仕事がない時はのんびりとゆったりとして

金がなくとも

米がなくとも

すべてを天に任せて悠々と生きたいものである。

48

えらいとほめて認めてくれるのは他人。

うまいですね、といってくるのも他人。

49